

第3回品川区長期基本計画策定委員会 議事概要

日時：平成20年5月20日 14:00～16:00

場所：品川区役所 第2庁舎 5階 251～3会議室

1. 開会

2. 委員長挨拶

- ・今回から5つの都市像について議論を行う。本日は都市像Ⅲ「みんなで築く健康・福祉都市」について議論を行うこととしたい。
- ・都市像Ⅲを中心に議論するが、5つの都市像は相互に関連するため、健康・福祉以外の分野についても、関連するご意見をいただきたい。

3. 長期基本計画素案（たたき台）についての意見交換

■事務局（資料3に基づき説明）

■委員長

- ・都市像Ⅲの内容は大きく4つに分けることができるが、全体について一括してご意見をいただきたい。

■委員

- ・協働の前提として、区民が個々に自主・自立していることが必要であると思う。
- ・区民一人ひとりが家族や他の区民の足手まといにならないために、まず、家族・血縁を母体においた自立を前提とし、それを区が側面から支援することが明示されていると良いのではないか。
- ・健康づくりの取り組みとして、区民健診の項目の充実や、健診結果の経年変化の伝達等を通じて、区民が自らの健康に関心をもてるようにしてはどうか。

■委員長

- ・いただいた意見について、この場で個々に対応を決めることはせず、最後に全ての議論を踏まえた修正案をもとに、改めて審議することとしたい。

■委員

- ・全体的に、区民に分かる言葉や内容で計画を作成して欲しい。
- ・生活習慣病と高齢者の介護という表現が多く出てくるが、例えば、生活習慣病は高齢者に限るものではなく、整理がなされていないように感じた。
- ・ノーマライゼーションやハンディキャップという表現では、本来、それらの用語の使い方や定義は異なるものの、両者が同じものとして用いられているように感じる。もう少し分かりやすく、平易な文章で記載して欲しい。

- ・委員会の資料は事前にいただいており、読んできていることが前提となっているため、事前配布の資料説明に 30 分程度をかけるよりも、その時間を意見交換に当てたほうが良いのではないか。

■委員

- ・ p.14 に「性的役割分業に対する否定的意見が増加し」とあるが、これを「性的役割分業を否定する意見が増加し」と書き直していただきたい。
- ・ p.79 の障害者福祉に関する「今後の課題」に、サービスを「区が一元的に提供する」ことが記載されており、この点は評価することができる。一般に、行政サービスは対象を定めた後にしか行うことができないため、ときに境界上にいる人が漏れ落ちることもある。そうした観点からも、一元的に提供するという姿勢は良いことであると思う。
- ・ p.75 の「⑤医療と福祉の連携の促進」は高齢者福祉のカテゴリーに入っているが、この問題は子どもにも関連する論点であるため、子どもについても同様の検討を行って欲しい。現在、品川区では病児保育が行われているが、近年、病児保育を行う機関はほとんどない。
- ・セーフティネット、ユニバーサルデザイン、ノーマライゼーションなど、現在、流行りのカタカナ表現を用いることはやめたほうが良いのではないか。計画はできるだけ日本語で表現した方が良いと思う。
- ・高齢者の健康維持は重要であるが、後期高齢者の保険などを考えると、長生きすることや病院に行くことが悪いことのような気がしてしまう。このようなことから、温かい雰囲気や伝わるような計画であれば良いと思う。

■委員

- ・高齢者福祉、子育て、教育に関連する大きな課題として、高齢化の進展が挙げられる。
- ・高齢化を前提とした施策の必要性は理解できるが、一方で、今後 20～30 年先を見据えた場合、たとえ制度を構築しても、その担い手がいなければ意味がない。
- ・ p.78 に若干の記載がみられるが、長期的な観点から、高齢化対策、担い手の育成、若年層の増大等について、積極的に検討する必要があると思う。

■委員

- ・福祉関係の仕事を志す若者も多いが、そこには厳しい労働環境があると聞く。福祉サービスの担い手の労働環境を改善するとともに、そこに携わる者に対する支援が必要ではないか。
- ・ p.65 に家族介護力の低下が指摘されているが、基本的に介護は家族で行うことが人情だと思う。しかし、核家族化の進展に伴い、それが難しくなっている。そのため、例えば 3 世代や 4 世代がともに住める集合住宅を建設し、

その1階には若い人が安い家賃で開業することができるスペースを設けるなど、弱者ばかりが集約的に居住する住宅とならないようにした集合住宅の建設について、基本計画のなかで方向性を示すことができれば良いのではないか。

- ・家庭介護について、区職員のなかで介護の必要性を抱えている者に対して、まずは区が率先して、家庭環境と職場環境の両立に向けた環境整備に努め、それが社会福祉法人や各企業に波及していけば良いと思う。

■委員

- ・p.84の地域福祉に関する「今後の課題」には、NPOに対する期待・役割が記載されている。
- ・先程、施策の狭間でサービスを受けることができない人の問題が指摘されたが、発達障害者は、障害者自立支援法のなかで対象として位置づけられていない。そのような人々を支えているのがNPOであり、NPOに対する期待や役割は、今後より一層重要になると認識している。
- ・福祉サービスの担い手として、行政ができることには限界があり、協働によりどのように展開していくのかという点が課題である。
- ・行政が地域で活動する区民やNPOのことを、どの程度把握しているのかよく分からないが、地域で活動するNPOを行政の縦割りに関係なく、分野横断的にコーディネートする仕組みや組織を区に構築していただきたい。

■委員

- ・子どもがちょっとした病気にかかった場合、昔なら祖父母や近所の住民が相談にのることも多かった。現在は、医師も減少しているとともに、多世代同居も減ってきているため、小さなコミュニティを構築していくことも重要ではないか。

■委員

- ・基本構想の3つの理念が、基本計画ではほとんど触れられていない。
- ・区民との協働が、今後10年間でどの程度ドラスティックに変わるのかということ考えた場合、それが施策からは読み取ることはできない。区民とともにこれからの福祉サービスを考えるのであれば、もっと踏み込んだ施策を打ち出しても良いのではないか。
- ・区民との協働をもとに品川区の地域福祉を推進していく場合、例えば、区民全員にヘルパーの素養を身につけさせること、中学卒業までにAEDの使用方法を学習させるなどの取り組みが考えられる。

■委員

- ・誰が地域社会を支えるのかということについて、まずは町会やNPOと区が協働の提携を結ぶことで、具体的に地域で何ができるかが明らかになっていく

と思う。

■委員

- ・ p.74 の「ヤングシニア」、p.75 の「コミュニティレストラン」の意味、その年齢の想定を教えてください。
- ・ p.76 の「①介護予防サービスの充実」には、「高齢者の生活の質を高め」とあるが、どのような質を、どのように高めるのかよく分からない。
- ・ 今回の計画案は、協働、共助の問題について非常にバランス良くよく考えられている。また、特に評価できるのは地域福祉を推進するという点で、地域との助け合いをクローズアップしたことである。
- ・ しかし、内容や記述が抽象的であるような感がある。例えば、高齢者は、元気な高齢者、介護が必要な高齢者、その間の高齢者に分けることができる。それぞれの対象に必要な施策やプログラムは異なるため、誰がどのように判断し、提供するのかを明示しなければ適切に機能しない。どのような層を対象にするのか、どのような人が参加するのか、そして、それを誰がコーディネートするかという点を、具体的に提示した方が良いのではないか。
- ・ 年金に関する問題は国政に関する論点であるが、このような国全体の問題についても、区の考え方を区民に示すことは重要であると思う。
- ・ 福祉全般について、サービスを実施するという表記を行う場合も、単に国の制度内で運用するというだけではなく、それに対する姿勢や区民に対するメッセージをより前面に押し出すことが重要ではないか。

■委員

- ・ 協働という表現が一人歩きしないように、行政と区民が歩調を合わせ、意識をすりあわせていく必要がある。
- ・ 高齢者や障害者に比べ、母子家庭等の社会的弱者への支援に関する記載が少ないのではないか。
- ・ 福祉サービスの提供に力を貸したい人、福祉に対して前向きに勉強し取り組んでいる人をコーディネートする場や機会が設けられると良いと思う。

■委員

- ・ 基本計画に記載する場合、区として実施可能なこと、実施できないこと、区として実施したいこと等を明確にする必要がある。
- ・ 介護予防を中心に据えることで、福祉サービスに係るコストの抑制の方向性が読み取れるが、その背景として、これまで通りの福祉サービスを行っていく場合、財政的に負担が大きいということも明示した方が良いのではないか。
- ・ メタボリックシンドロームに関する記載があるが、糖尿や高血圧などは、健診結果を受け、薬を飲むことで病気を予防することもできる。そのため、区民健診の充実だけでなく、より踏み込んだ健康づくりを検討しても良いの

ではないか。

- ・ p.67 の区民の健康づくりの支援では、高齢者だけでなく子どもも対象となるため、例えば食育等のように学校で取り組むことも考えられ、教育の一環として子どもの健康づくりを検討することが重要である。
- ・ 多様な住宅が建設されているなかで、シックハウスの問題やアレルギーの問題なども大きくなっている。保健所の対応として扱うのではなく、区として、住まいに関する問題としても検討すべきではないか。
- ・ p.69 の「①かかりつけ医制度等の充実」については、医師会と連携して取り組んでいくことが重要である。また、地域の医師に対する区民の信頼を高めるための施策が必要であると思う。
- ・ p.70 では、地域密着型サービスの導入されたことが記載されている。しかし、国の規定通りに運用していくことだけではなく、東京の地価の高さを考えると、例えば、個室ユニットの是非を国に訴えることも必要ではないか。
- ・ p.73 では、「明治生まれから昭和 10 年代まで」を高齢者としているが、既に昭和 20 年代も高齢者になっているのではないか。
- ・ p.74 に記載のある高齢者クラブについて、これだけ元気な高齢者が多い中で、その名称に抵抗感を抱く人も少なくないのではないか。
- ・ p.74 のボランティアのポイント制度も、ボランティアのあり方を考え、有償・無償のどちらで制度を設計するのか検討することが必要である。
- ・ p.76 には、介護サービスの充実に関する内容として、施設配置の面的な整備について、基本計画に記載しても良いのではないか。
- ・ p.77 に「高齢者優良賃貸住宅制度」に関する記載があるが、多くの区民には分かりにくい内容となっている。
- ・ p.77 の高齢者のケアホームに関する記載との関連で、区民住宅の借り上げ型について、区として考え方を示すべきであると思う。
- ・ p.78 の介護保険事業の運営について、介護報酬の面から考えると、区としてできること、できないことを明確に分けて考えるべきではないか。
- ・ 区は一生懸命に活動している NPO とそうではない NPO を選別し、支援すべきである。また、区が支援や団体間のコーディネートを行う場合、個人情報扱いについても対応方針を明確にする必要がある。
- ・ p.86 には、地域福祉の担い手に関する記載があるが、ここには町会・自治会が抜けているため、加えていただきたい。

■委員

- ・ 区民アンケートでは、高齢者福祉に対する要望が特に高かった。
- ・ 長期基本計画が 10 年間の計画であるのであれば、もう少し、区として現状認識を示し、その上で、今後の方向性を打ち出すことが必要ではないか。

- ・ p.69 のかかりつけ医について、例えば、人口規模に対してこれだけの医療サービスが必要であるという区のを考えを明確に示すことが必要ではないか。
- ・ 国は療養病床を減らす方針を示しているが、その結果、品川区にはどのような影響が出てくるのか。今後、国の方針により、区はどのような体制を構築するのか検討することが重要である。
- ・ p.77 には、生活面で苦しい人に対するセーフティネットについて記載されているが、生活面だけではなく、施策や方針の転換による影響等、外的要因により支援が必要となっている人への支援も盛り込む必要があるのではないか。
- ・ 先程、個室ユニットに関する指摘があったが、個室を大部屋に戻すことは難しいと思う。
- ・ 住宅について、高齢者優良賃貸住宅制度の活用が記載されているが、そこでは近傍家賃との整合性が必要となる。しかし、国民年金だけで生活している人の場合、住宅に入居することが難しい。誰もが安心して住むことができる区営住宅の整備に関する方向性を示すべきであると思う。
- ・ 介護サービスでは、東南アジアからヘルパーを受け入れることが検討されているが、これが進むとヘルパーの低賃金化が一層進む恐れがある。また、その場合、品川区が介護学校を有することが困難になる。区として、国に意見を申し立てていくことが重要ではないか。
- ・ ユニバーサルデザインについては、鉄道事業者への働きかけが重要ではないか。

■委員

- ・ p.67 の区民の健康づくりに関する個別施策のうち、「③食からの健康づくりの推進」、「④歯の健康づくりの推進」は良いと思う。しかし、①、②に記載されている内容は一般的な表現にとどまり、具体的な内容が見えてこない。区民アンケートの結果をもとに、具体的な内容を検討し、記載しても良いのではないか。
- ・ ヤングシニアには、早期退職した後、地域に溶け込みにくい問題があるのではないか。このような人々を、地域参加させる組織や機会を設けていくことが重要ではないか。

■委員

- ・ ヤングシニアの問題として、「しながわシニアネット」は、今指摘のあった層をターゲットに活動を行っている。ヤングシニアという表現は、団塊世代の地域デビューに関連して用いられているのではないか。
- ・ しながわシニアネットの参加者の平均年齢は 68 歳となっており、想定より年齢層が高くなっている。その背景には、雇用延長などがあると考えられる。
- ・ 今後、現在 40～50 代のシニア予備軍が地域参加し、地域になじんでいけば良

いと思う。

- ・ヤングシニアの地域参加を支援すると記載するのではなく、シニア全般を対象とする方が良いのではないか。また、支援助地域の例として荏原地域が挙げられているが、全区展開していくことが望ましいのではないか。

■委員

- ・都市像で、なぜ「みんなで築く」と表現されているのか分からなかったが、先程の財政面からのご意見を聞き、非常に納得がいった。
- ・これまでは、区が様々なサービスを提供してくれていたが、協働等を通じて、区民が自分でやってみることが面白いと思うようになることで、それが生きる活力につながっていくのではないか。

■委員

- ・p.87の「ひとにやさしいまちづくり」に関する個別施策では、「推進する」という姿勢ではなく、「指導的に行う」といった積極的な姿勢を示してもらいたい。

■委員

- ・p.88の「生活の安定を支援する」ということに関連して、日雇いから脱却するための当座の資金の不足に関する問題等について、単に日雇い派遣が悪いとみなすのではなく、生活困窮者に対する支援を考える必要があると思う。

■委員

- ・制度を国の制度と区の制度に分けて考える必要があり、また、今後も区の予算額が急激に拡大するわけではないことを踏まえると、できることとできないことを明確にする必要がある。
- ・特別養護老人ホームの広さに関する基準は全国一律であるが、高齢化による対象者の増大と東京の地価の高さを考えると、法律基準の例外的な対応や法改正について、国に要望することも重要ではないか。

■委員

- ・健康づくりについて、子どもの視点、女性の視点を加えていただきたい。子どもに関する点では、入学前や義務教育後、健康データと支援のつながりが消えてしまう問題がある。また、女性に関する点では、性差を踏まえた医療サービスが必要であり、こうした視点を盛り込んでいただきたい。
- ・障害者への支援は、早期発見・早期療育を大前提にしながら、就学から就労へなどのサポートを推進していただきたい。
- ・発達障害者に対するサービス窓口の間で連携が取れていない面があるため、そのコーディネーターが重要ではないか。
- ・在宅介護を推進する方向性は今後も変わらないと思うが、家族介護を行う者には報酬は支払われないものの、介護には負担が伴うため、何らかの支援は

必要であると思う。

- ・ p.87 のユニバーサルデザインに関連する点として、区役所内のユニバーサルデザイン化を検討していただきたい。
- ・先程から、財政に関する意見が示されているが、基本政策や基本方針ごとに、概算の事業費を資料に記載してもらえれば、策定委員会のなかで財政についても議論を行うことができると思う。

■委員

- ・女性の問題については、個々の施策にそれぞれ記載するとともに、男女共同参画については、その前提として明記するようにはしていただきたい。

■委員

- ・千代田区や新宿区では、独自に高齢者の医療費補助を行っている。品川区でも高齢者医療について、より積極的に進めていくべきではないか。

■委員

- ・「基本方針 3-4：地域福祉を推進する」は総論的な内容であるため、これを都市像Ⅲの冒頭に位置づけても良いのではないか。

■副委員長

- ・もう少し、健康と福祉に関する全体像が冒頭に記載されていると、この都市像が高齢者に関するものだけでないことが分かりやすくなるのではないか。
- ・連携という表現がみられるが、制度間、担い手間のつながりや連携について、もう少し明確に描かれていると良いのではないか。
- ・本来、社会福祉協議会は団体間の連携を目的とする組織であるが、実際にはそのようになっていない。そのため、区民や団体がどのように協力し、その真ん中で誰が旗を振るのか、こういった区民や団体のコーディネートを行う組織について、あらためて検討することは重要である。

■委員長

- ・今までのご指摘は、本当にどれも理解できるご指摘で素晴らしかった。
- ・いただいたご意見、ご指摘の計画案への反映は、副委員長、学識委員のご協力を得ながら行うこととしたい。

4. その他

特になし

5. 今後のスケジュールについて

- ・次回委員会は、6月4日午前10時から行う予定である。

6. 閉会

以上